

ところ変われば

前にもこちらで触れましたが、落語家は色々な仕事をいたします。ナレーションや司会、コメンテーター、俳優、大学での講義など。近頃は無くなりましたがその昔、お座敷に呼ばれて座持ちなどもやりました。私が真打に昇進してからは、師匠のお供で海外に行くことが増えました。10年間行かせて頂いたのはアメリカのバーモント州にあるミドルベリー大学というところですが、ミドルベリーは大変に小さな郊外の町で、北海道の道東に似ていて、人よりも牛の数の方が多いような所です。決してリンゴと蜂蜜が豊富で、カレーライスが有名なところではありません。

アメリカは夏休みがとても長いです。その長い休みを使って、大学生が外国語を9週間合宿生活して学ぶプログラムがこの大学にあります。アメリカというのは厳しい社会で、自分の給料は直接上司と掛け合って決めます。少しでもスキルアップして条件を有利に進めなくてはなりません。このプログラムは高いお金がかかることもあり、学生さんたちの目は真剣です。

言語のコースもいろいろあって、中国語、イタリア語、スペイン語、フランス語、ロシア語、日本語等々。学生さんは皆アメリカ人の学生なのですが、なぜか学ぶ言語によって雰囲気が変わってきます。ロシア語の学生さん達はシュワルツェネッガーみたいながっちりした体形で背も高く威圧感がありますし、イタリア語の学生さんは、女の人が目の前を通ると頭から足先までスケベそうな目で見ます。お昼に食堂に入った瞬間あまりの声の煩さに驚くと、中国語の学生さん達だと気づきます。では日本語の学生さんはと申しますと、とてもシャイな方が多く、秋葉原にいそうなアニメオタクの匂いのする方も混じっています。背中に「亀」と漢字の入ったドラゴンボールのTシャツを着て紙袋を手に虚ろな目でこちらを見ていたりします。全員ではありませんが。

その日本語学校の授業に一週間落語ウィークの講師として招かれます。クラスが初級、中級、上級と分かれていて、それぞれの授業に訪問し、落語という伝統芸能を通して日本の文化についてお話をします。なかに「落語クラブ」というのがあって、みなさん落語の小噺を日本語で覚えて練習して



います。その週の金曜日の夜、その小噺発表会と我々の落語会が続けて行われます。無事に小噺を終えた学生の皆さんは、達成感で満たされた晴れやかな顔をしています。我々の落語には高座裏の上の方にプロジェクターで英語の字幕が表示されます。落語を英訳してPCから人の手でポンポン出して進めます。笑いが遅れてくると字幕が遅れてるのだなあと感じながら、わざとゆっくり話をしたりします。

学生の皆さんも頑張っているのだからと、こちらも毎年、落語の前の小噺を英語でやっておりました。

ある一家が交通事故にあい皆死んでしまいました。ところが車に乗っているサルだけが助かり、このサル

が人間の言葉がわかるというので警察が尋問をしました。

「おいサル、お前は人間の言葉がわかるそうだな」、「ウキキキキ（親指を立てる仕草）」、「お父さんは何をしていた?」、「ウキウキウキ（携帯電話で話す仕草）」、「そうか、携帯電話で話をしていたのか、それで事故になったのかかもしれない。お母さんは何をしていた?」、「ウキーウキー（居眠りの真似）」、「寝ていたのか、それで事故になったのかかもしれない。子供たちは何をしていた?」、「ウキウキウキウキ（暴れる仕草）」、「暴れていたのか、それで事故になったのかかもしれない。ところでサル、お前は何をしていた?」、「ウキキキキキキ（車のハンドルを動かす仕草）」。

と、この話を英語で披露しました。驚いたことに、サルだけが助かりました、の所まで話すと割れんばかりの拍手と笑いが起きました。まだ続きがあると最後までやり通しましたが、後で聞いてみるとサルは馬鹿の象徴で、サルが助かった所でアメリカンジョークが完結しているとの事でした。とても面白い貴重な経験となりました。

これを機会に海外の色々な国へ参りました。その昔、ポーランドのクラクフという町で公演をして参りました。近くにアウシュビッツがある、日本でいう京都のような古都で、趣のある美しい街並みでした。公演が終わり空港で飛行機の搭乗を待っていると、小学生の空港見学の一行がやってきました。子供たちはキョロキョロ辺りを見渡しているのですが、私の近くに来ると全員が私を凝視して歩いていきます。東洋人がほほいない町なのでさぞ珍しかったのでしょう。子供のころ外国人を見ると「外人だ!」と騒いだのを思い出しました。

「噺家は世上のアラで飯を食い」

コロナ禍が落ち着き、昨年 11 月にイギリスのオックスフォード大学とロンドンで公演をしてきました。今年はフィリピンとアメリカに行く予定です。何か面白い話がありましたら、また改めて・・・

2025年1月

事業推進委員、研究・研修委員

柳亭 左龍（落語家）



●柳亭左龍／プロフィール

1993年 柳家さん喬に入門

2006年 真打昇進 六代目「柳亭左龍」を襲名

2009年 第14回林家彦六賞受賞

2010年 花形演芸大賞銀賞受賞

2011年 花形演芸大賞金賞受賞

2012年 花形演芸大賞金賞受賞

書籍：「使ってみたいイキでイナセな江戸ことば」(小学館)

趣味：釣り・ドライブ・ラグビー観戦

活動：2013年より東京女子大学非常勤講師（日本の古典芸能）

NHKドラマ「青天を衝け」「らんまん」「大奥」「べらぼう」等の
江戸言葉の指導

「ひとりで悩む前に」お気軽にご相談ください。